

# 40 《鳴海宿》

名古屋市緑区

『和名抄』の愛智郡「成海」とある古い地

宿内人口	3643人
総家数	847軒
旅籠	68軒
大	2軒
中	10軒
小	58軒



本陣 1軒  
脇本陣 2軒

宿の中心部本町。本陣の下郷家が左側にあつたが何も標識が出ていない。



名鉄鳴海駅



道は作町の角で右折する。



中嶋橋を渡り、昔の相原町に入る。



宿の入口。今も常夜燈がある。



高札場の前の通り



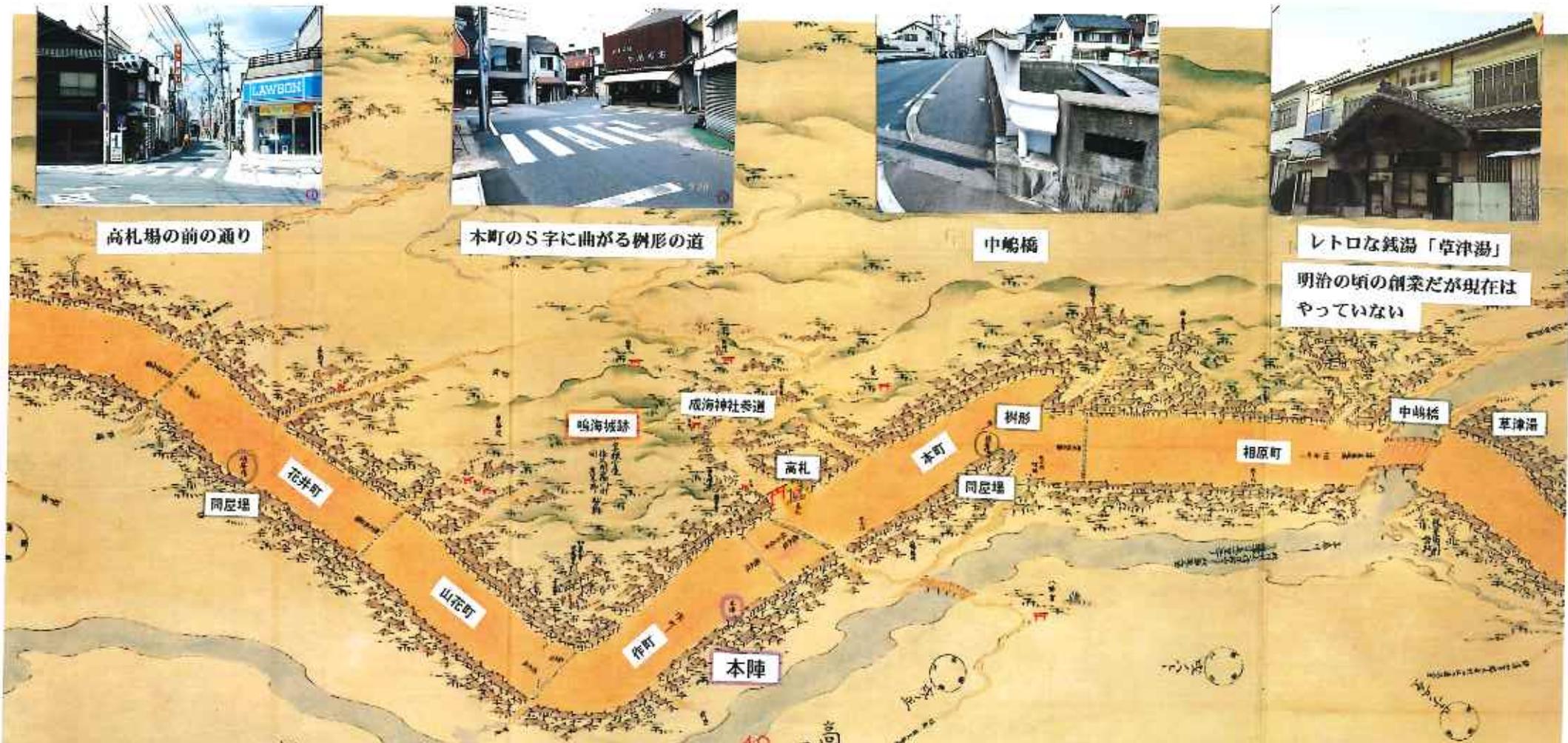
本町のS字に曲がる樹形の道



中嶋橋



レトロな銭湯「草津湯」  
明治の頃の創業だが現在は  
やっていない



鳴海城跡 成海神社参道 高札 本町 樹形 相原町 中嶋橋 草津湯  
同屋場 花井町 山花町 作町 本陣 同屋場



鳴海城の空堀

高千穂の百四拾五石  
尾別愛知郡  
鳴海宿  
熱田宿二里半六丁



鳴海城跡公園 誓願寺 鳴海城跡(成海神社) 瑞泉寺 草津温泉(湯) 中嶋橋 名鉄名古屋本線 常夜灯 如意寺

クランク状になっている場所があるが、道なりに進む

本町交差点を右折すると、誓願寺と成海神社がある

広重が鳴海有松。ちな広重のシ





笠寺の一里塚 江戸から88里目(352km)の一里塚で、名古屋市内を通る唯一の塚で右半分が残っている。



鳴海宿を出る。鳴海町北浦。



『日本往來・東海道ウォーキングマップ』





右の小学校の名の信号を直進する。



笠寺町の笠覆寺（笠寺観音）。奈良時代の天平元年（729）の創建と古い。



名古屋高速3号大高線の高架下を通り、熱田神宮へ向う。

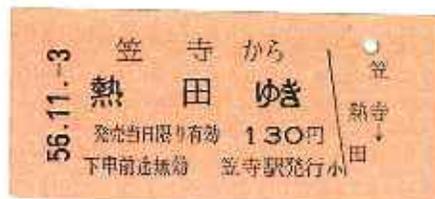


笠寺商店街の中を通る。

# 41 《宮宿》

桑名への七里の渡しの湊町・門前町

宿内人口	10342人
総家数	2924軒
旅籠	248軒
大軒	36軒
中軒	33軒
小軒	179軒



熱田神宮で5月5日に行われる「馬追い」の神事で、有松絞りを着た人達が描かれている。



精進川に架かっていた裁断橋。



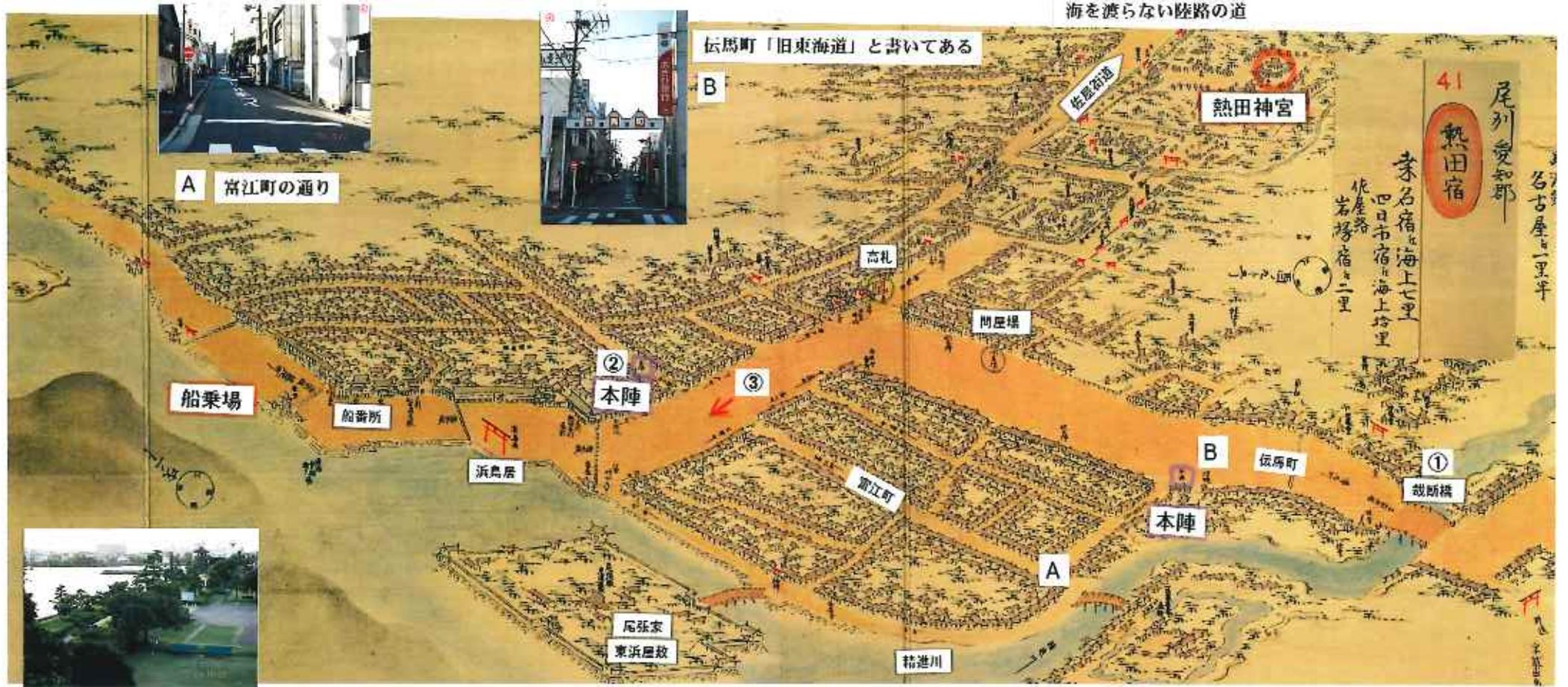
本陣 2軒  
脇本陣 1軒

赤の本陣といわれた南部家が左側の標識の所にあった。白の本陣は伝馬町にあった。



裁断橋の跡でここを曲がると宮宿の中心部に入る。橋は昭和元年に埋めたてられた。

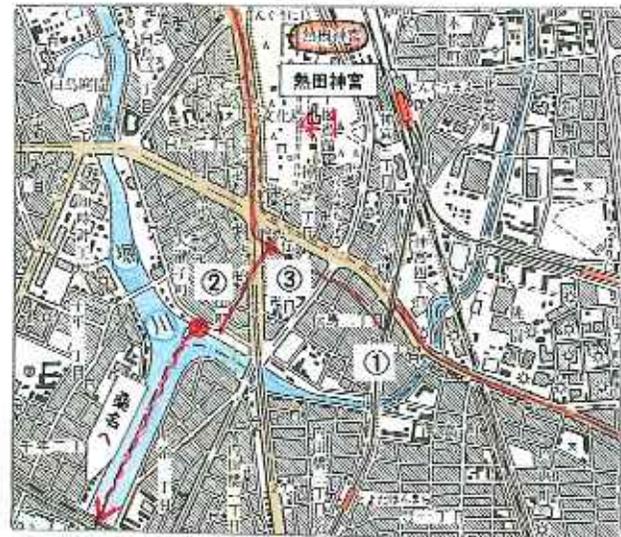
海を渡らない陸路の道



船乗場の全景。鐘楼が見える



名古屋駅へ



名鉄

名鉄 東海本線



国道247号の先に渡し場がある。



ここから桑名へ7里（28 km）約3時間程の船旅となる。



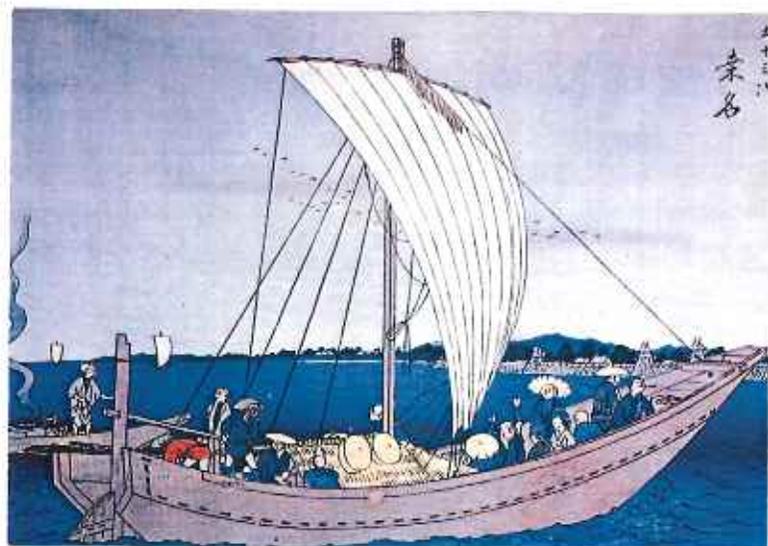
明治29年に建てられた「魚半」という料亭でこの右にある、丹羽家の住宅共文化財になっている。



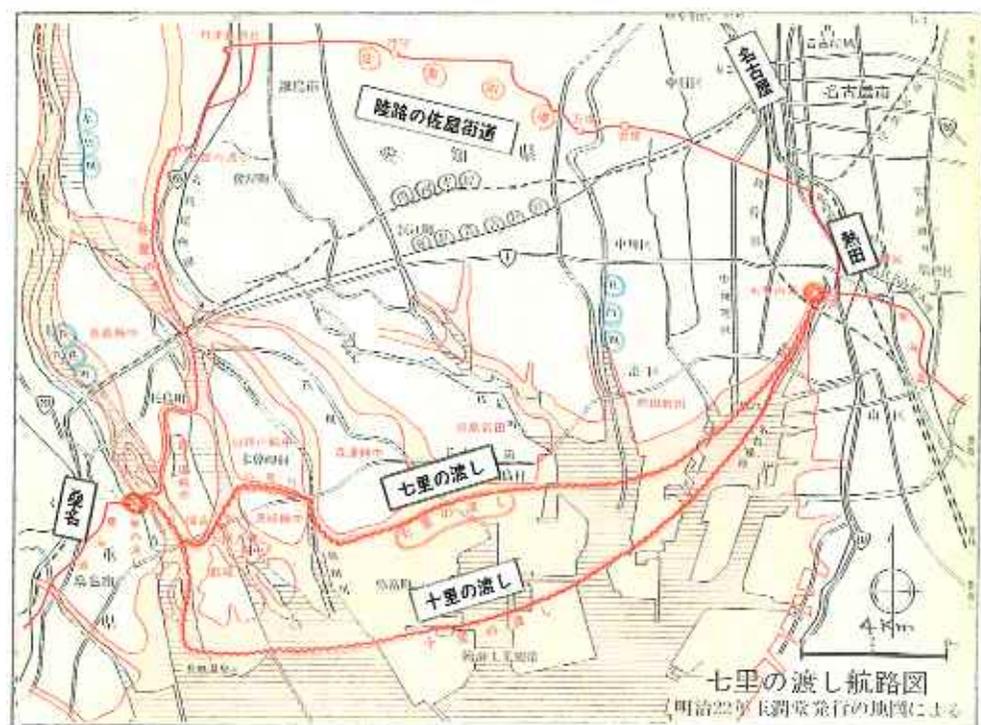
左は、延宝4年（1676）に設置された鐘楼で「時の鐘」と呼ばれた。右は、寛永2年（1625）に設置された常夜燈で船の目印になった。



東海・木曾両道中懐宝図鑑 天保13年(1842)



広重の七里の渡しの絵



七里の渡しの航路図。上の方には陸路の佐屋街道が描かれている。

# 42 《桑名宿》

徳川四天王の一人

本多忠勝が十万石の城下町として整備した

宿内人口

8848人

総家数

2544軒

旅籠

120軒

大 8軒  
中 34軒  
小 78軒



JR関西本線の桑名駅



七里の渡しの桑名の湊。伊勢神宮への一の鳥居が見える。東海道は鳥居をくぐって左へ行く。手前の左側は桑名城。



本陣 2軒

脇本陣 4軒

鳥居をくぐってすぐ左側が本陣の丹羽家の跡で標識が建っている。もう一つの本陣は大塚家で、今は料亭の「船津屋」として営業している。



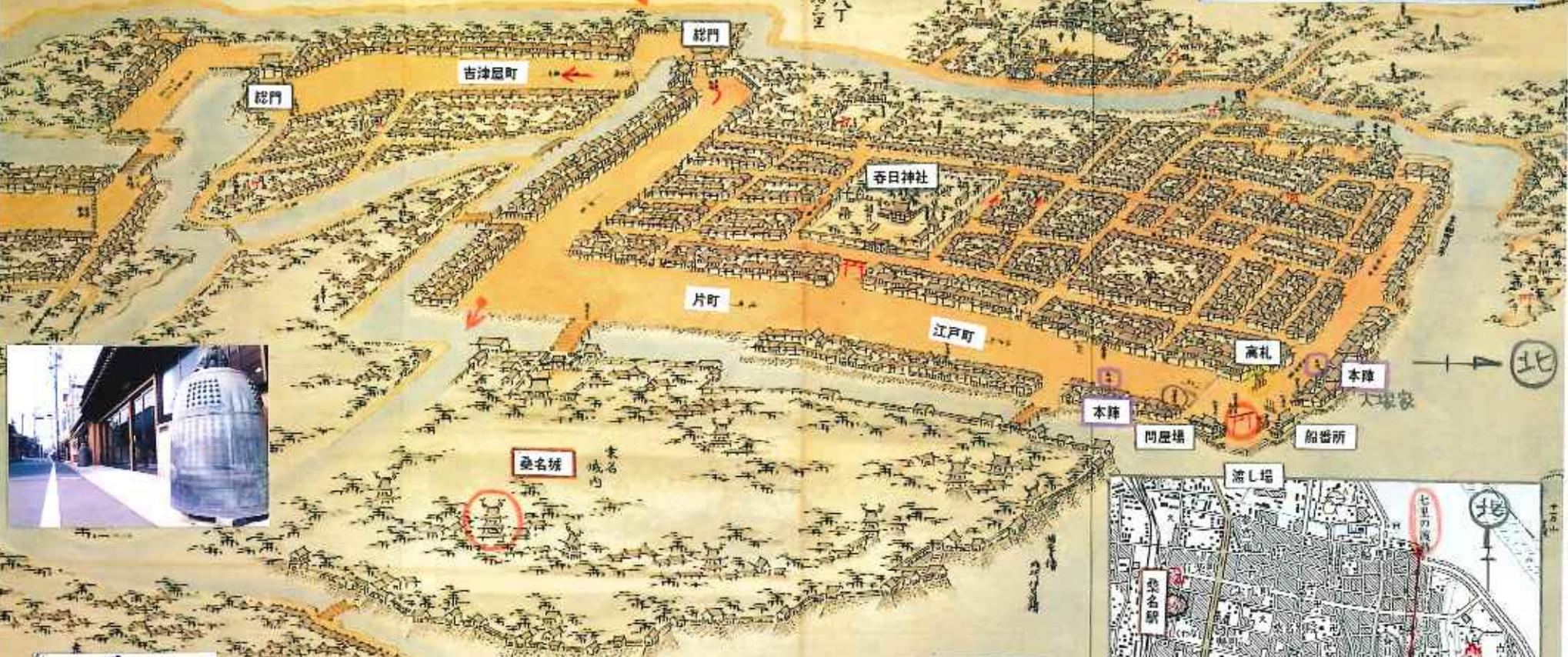
市内の伝馬町の様子

# 史跡 七里の渡し

この七里の渡しは、江戸時代、奥州街道の宿場として栄えた。昔は、舟で川を渡り、江戸町へ向かう。現在、渡し場跡には、船着き場跡と、大塚本陣跡がある。また、舟の渡し場跡には、舟の渡し場跡と、舟の渡し場跡がある。 (中略)

42  
来る宿  
高千穂藩の  
惣門来る郡  
四日市宿と七里八丁  
依屋宿と川路の宿

今は下の絵の様に、カギ形にはなっていない。  
昔の京町から吉津屋町へ  
曲がって入る所。

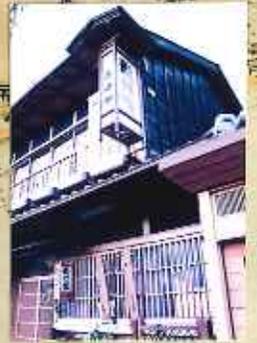


絵は右が北

地図は上が北



矢の馬町  
この矢の矢田町  
鉾の屋



明治10年の創業



桑名城内の堀

本陣の裏からは直接  
船が出ていた。



大塚本陣跡。明治から料亭「船津屋」として営業している。

江戸町のうどん料理屋「歌行燈」



広重の富田立場の「桑名の焼蛤」の絵。  
両側に店が並んでいる。



員弁川（町屋川）を渡り四日市市に入る。当時川の幅が202間（363m）もあった大きい川。

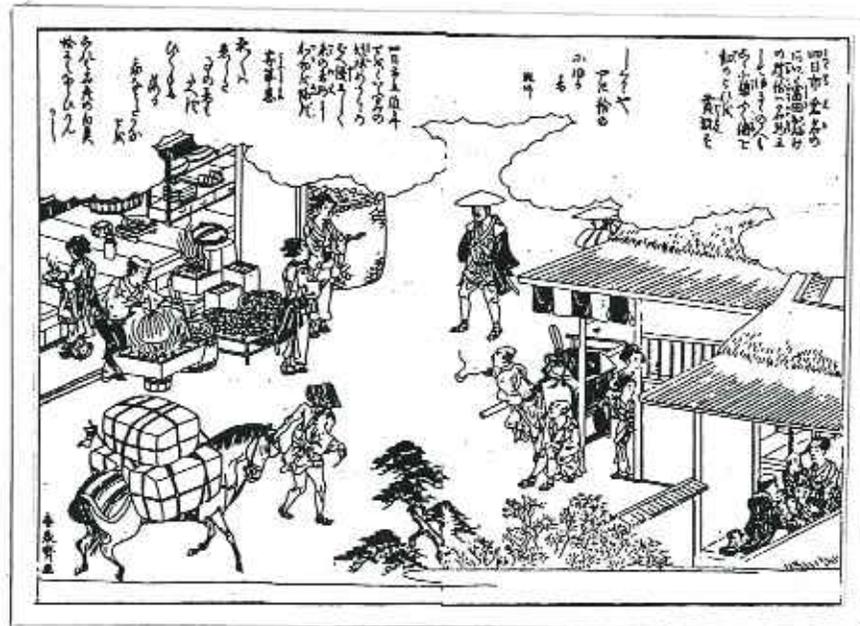


富田の立場に近いJR富田駅。



明治天皇御小休所の碑

有名な「桑名の焼蛤」の発祥地！



『東海道名所図会』の桑名の立場の絵。蛤を松ぼっくりを使って焼いていた。ここは間の宿だった。

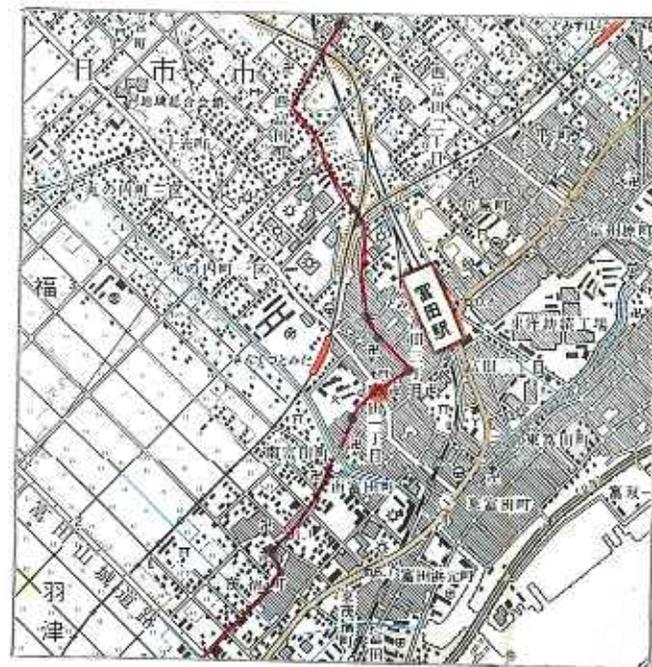
明治天皇もここで休まれ焼蛤を食べられたとある。  
右側に明治天皇の休まれた時の標柱が建っている。



三滝川を渡り、四日市の宿に入る。



富田の商家「江島屋」



# 43 《四日市宿》

毎月4 14 24の4の付く日に市が立った名

宿内人口

7114人

総家数

1811軒

旅籠

98軒

大22軒  
中32軒  
小44軒



JR四日市駅 平成30年9月28日撮影



本陣 2軒  
脇本陣 1軒

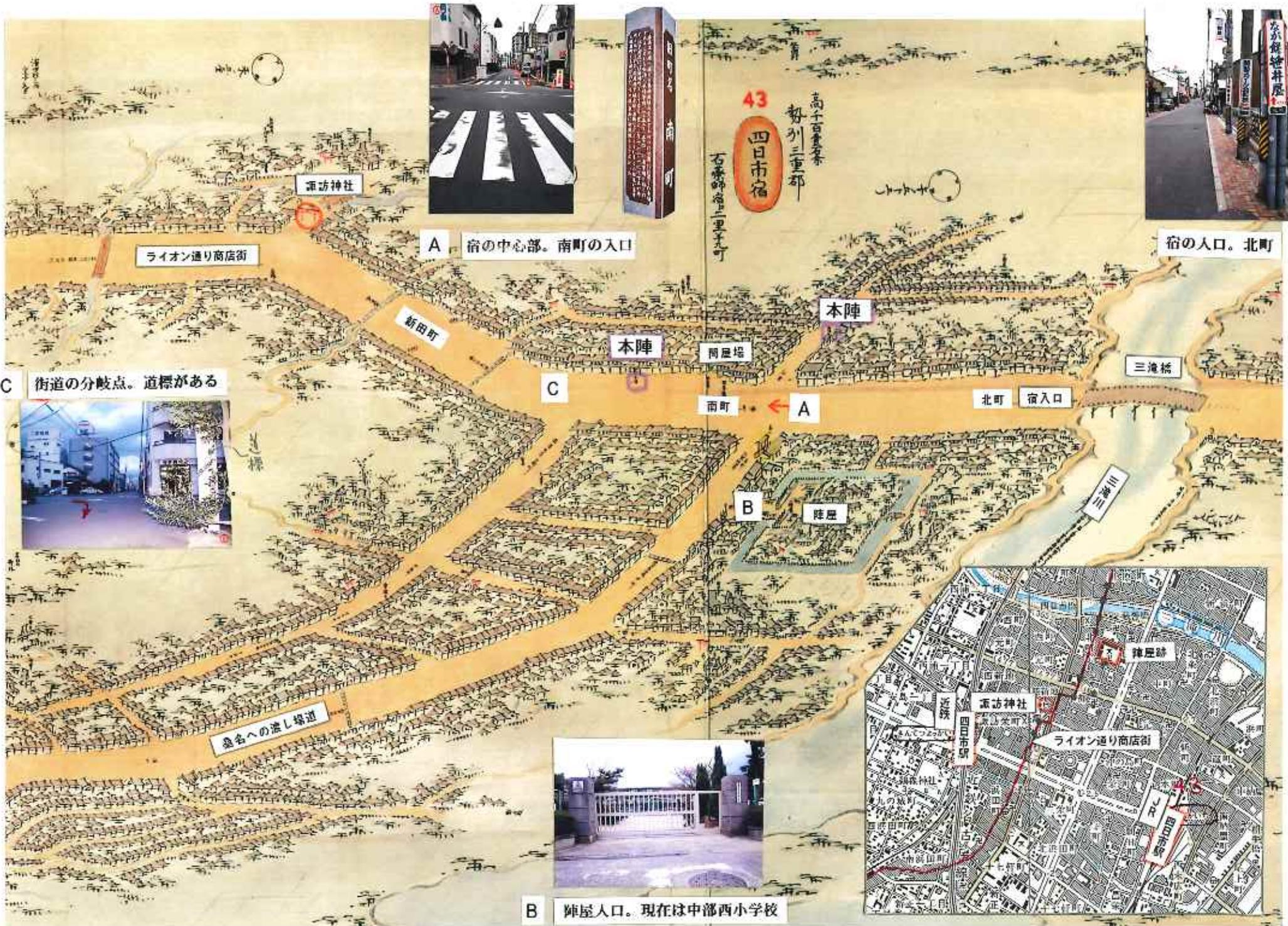
右側に本陣太田家があったが、何も標識がなく場所が特定出来ない。



右が諏訪神社で、東海道はライオン通り商店街になっている。



なが餅の「笹井屋」 創業は天文19年(1550)と古く、藤堂高虎も食べたという。牛の舌の様に長い餅で、元は日永の追分にあった。



A 宿の中心部。南町の入口



宿の入口。北町



C 街道の分岐点。道標がある



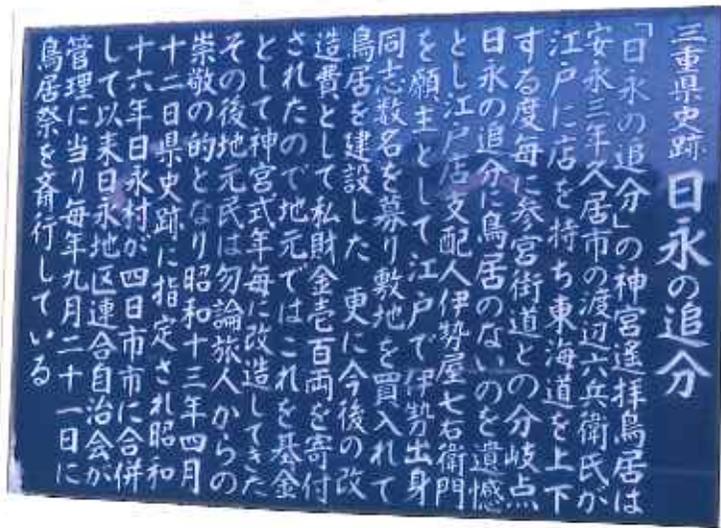
B 陣屋入口。現在は中部西小学校



日永の伊勢街道との分岐点。ここから伊勢神宮への道が分かれていて、二の鳥居が建っている。約16里（64 km）あり道標や常夜燈が残っている。



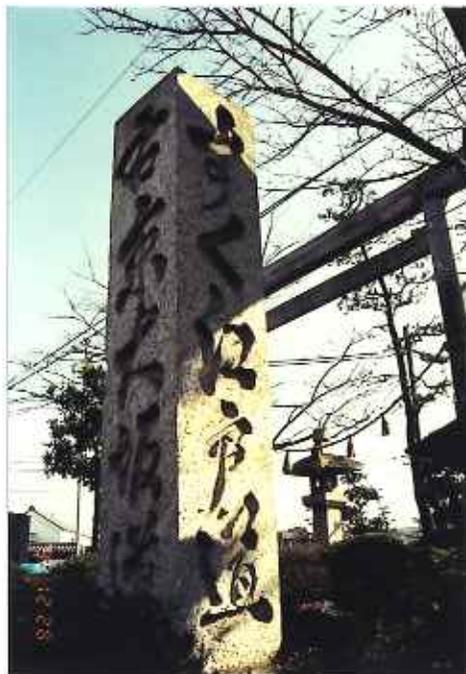
四日市宿を出て南浜田町に来ると、まだ古い家並みが残っている。昔の浜田村。



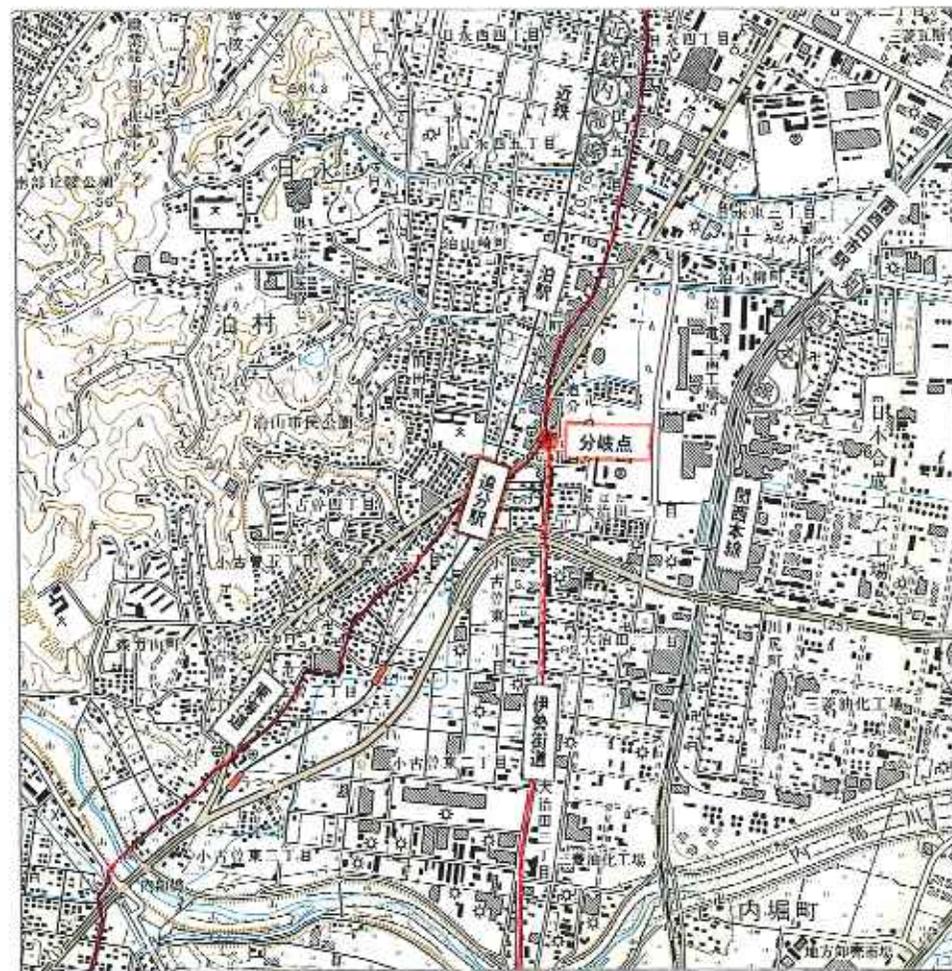
日永の追分の標識。昔も今も泊村。



東海道との分岐点の模型。右が東海道。



近鉄の追分駅



嘉永2年（1849）の道標や常夜燈が建っている。「右京大坂道」「いせ参宮道」とある。



国道1号線から右に分かれ石薬師の宿に入る。

# 44 《石薬師宿》

東海道で一番小さい宿場



本陣 3軒

脇本陣 なし

3軒あった本陣の一番手前の小沢家で明治の初め頃に建て替えられた建物。元禄時代あの赤穂城主の浅野内匠頭もここに泊まったと掛かっている説明板に書かれている。



石薬師宿の入口にある、旅の安全を願って建てられた北町の地蔵堂。



あとの2軒の本陣、岡田家と園田家が左側にあつが今は何も残っていない。振り返って見てる。



宿の西の外れにある石薬師寺。奈良時代の聖武天皇の頃の創建と古い。真言宗。広重の絵にも描かれていて、宿の名の元になっている寺。

宿内人口

991人

総家数

241軒

旅籠

15軒

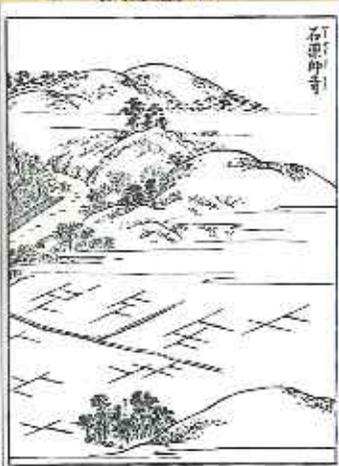
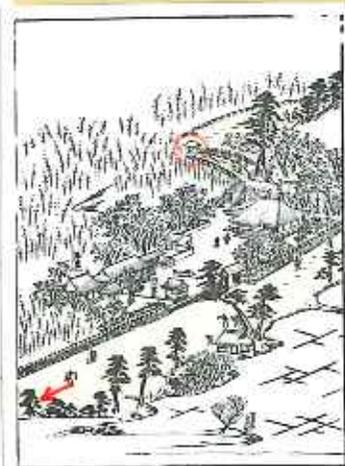
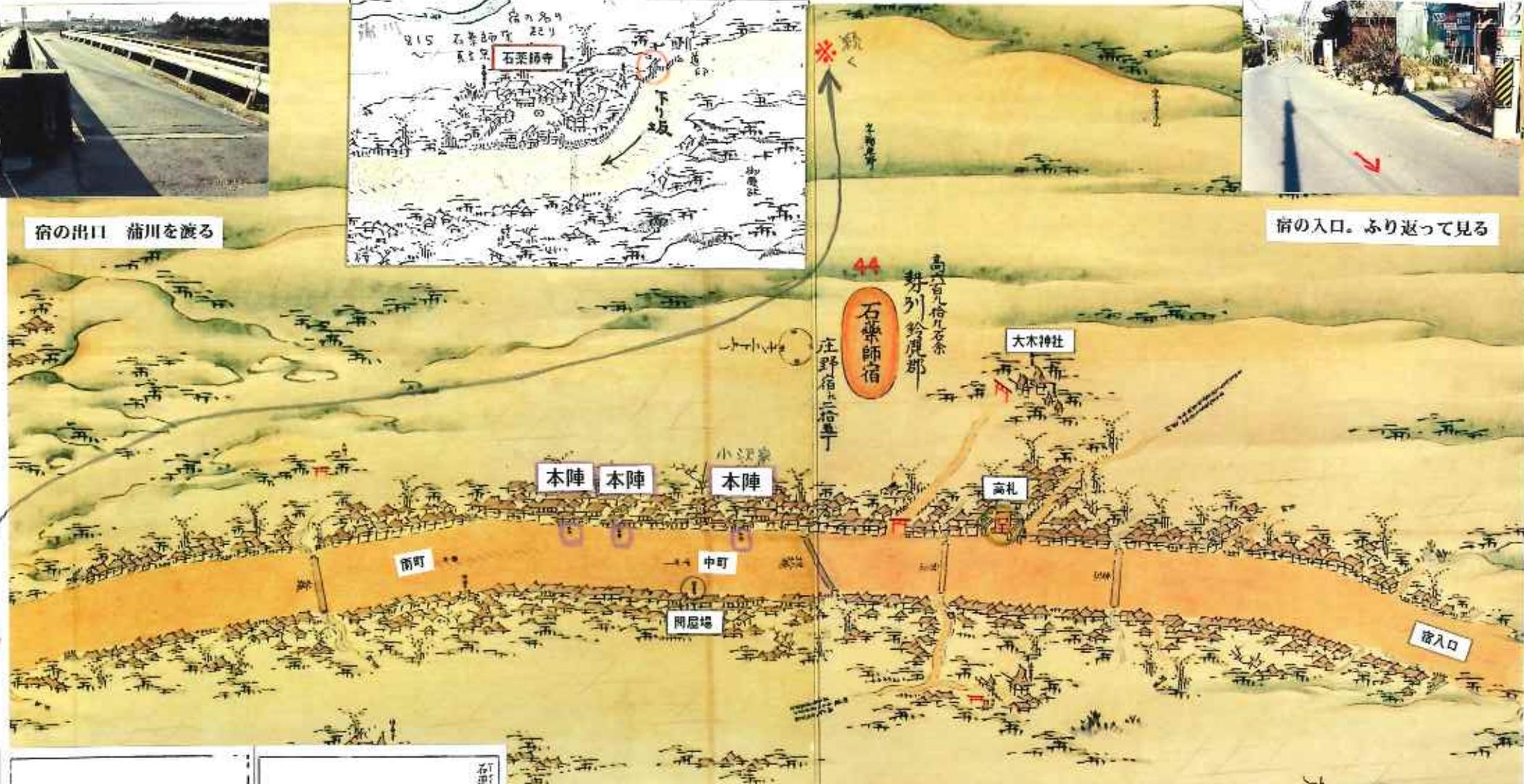
軒軒軒  
大 7  
中 5  
小 3



宿の出口 蒲川を渡る



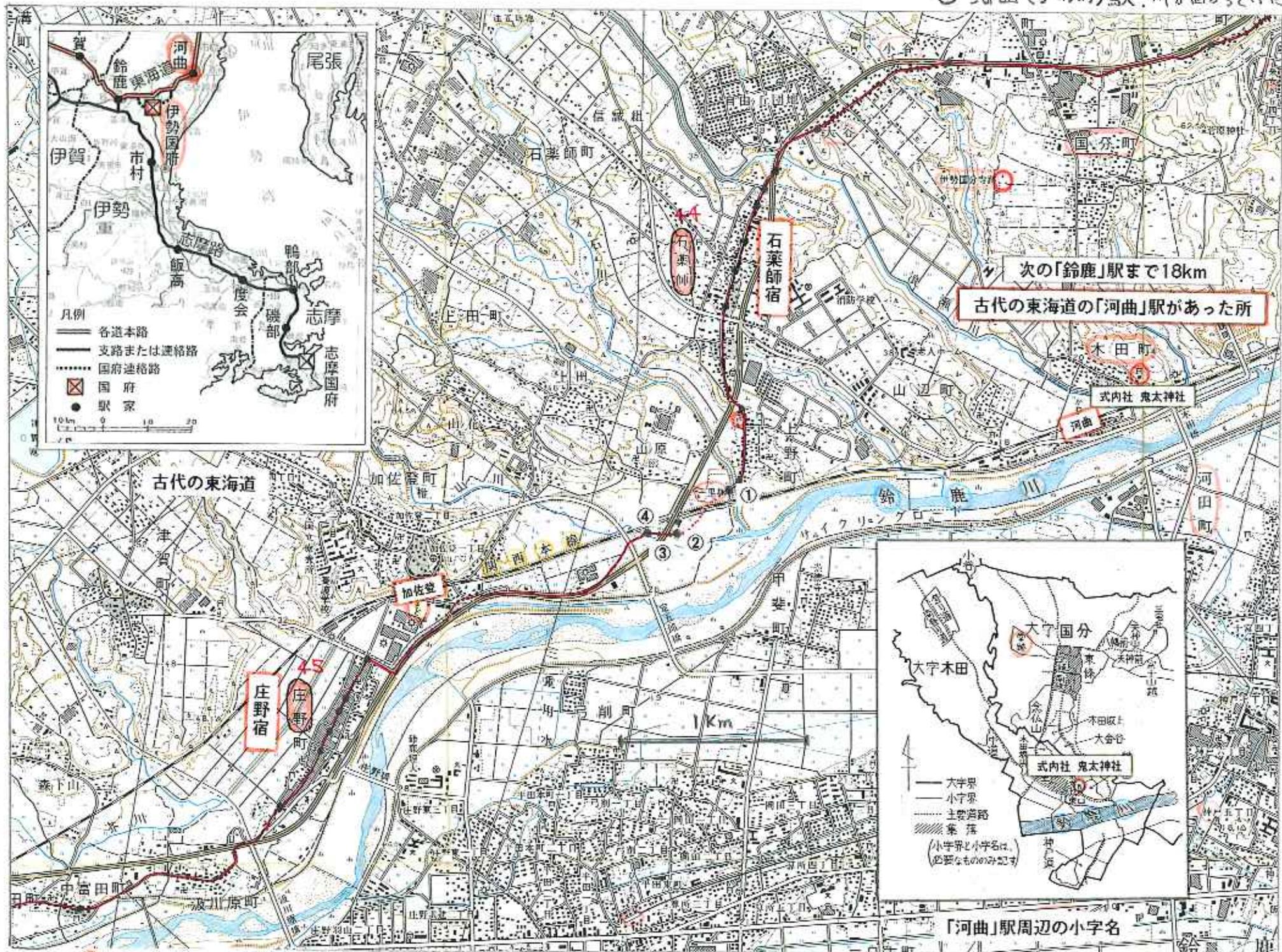
宿の入口。ふり返って見る



『東海道名所図会』



北



鈴鹿市木田町

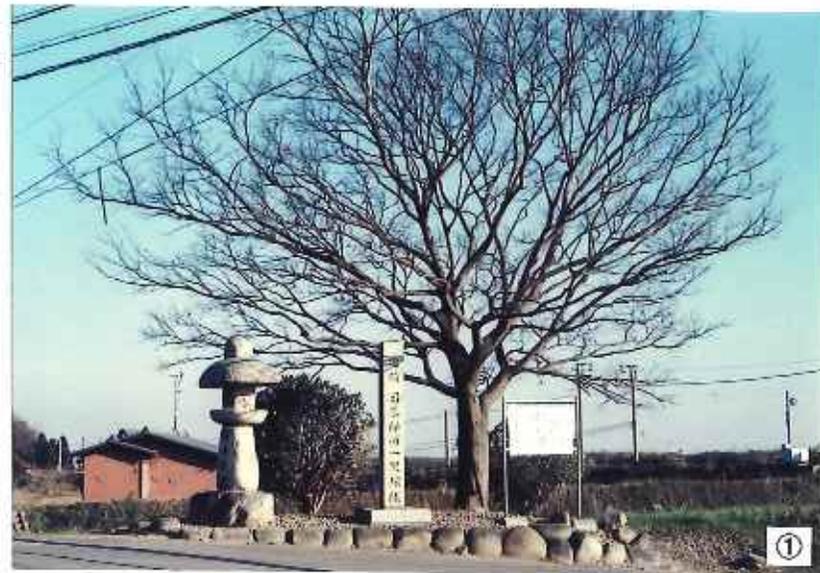
この下の方に伊勢国の国府がある。



関西本線と1号線が交わる所で、右下に見えるのが東海道。下のトンネルをくぐり反対側へ出る。



椎山川を渡り、庄野宿へ向う。



石薬師の一里塚



国道1号線の下をゆく。

# 45 《庄野宿》

小規模な宿だが、当時の道幅が残っている。

宿内人口	855人
総家数	211軒
旅籠	15軒
軒	4軒
大中小	6軒



本陣 1軒 今の鈴鹿市役所庄野支所の  
脇本陣 1軒 所が本陣の沢口家。



石薬師宿を出て、鈴鹿川沿いの庄野宿に入る。関西本線の加佐登駅が近い。



鈴鹿市指定建造物の小林家。今は庄野宿資料館になっていて広重の庄野宿の絵が置かれている。



本陣の少し先の昔の上町。



上町のはずれ



上町の入口



中町の手前の旧家



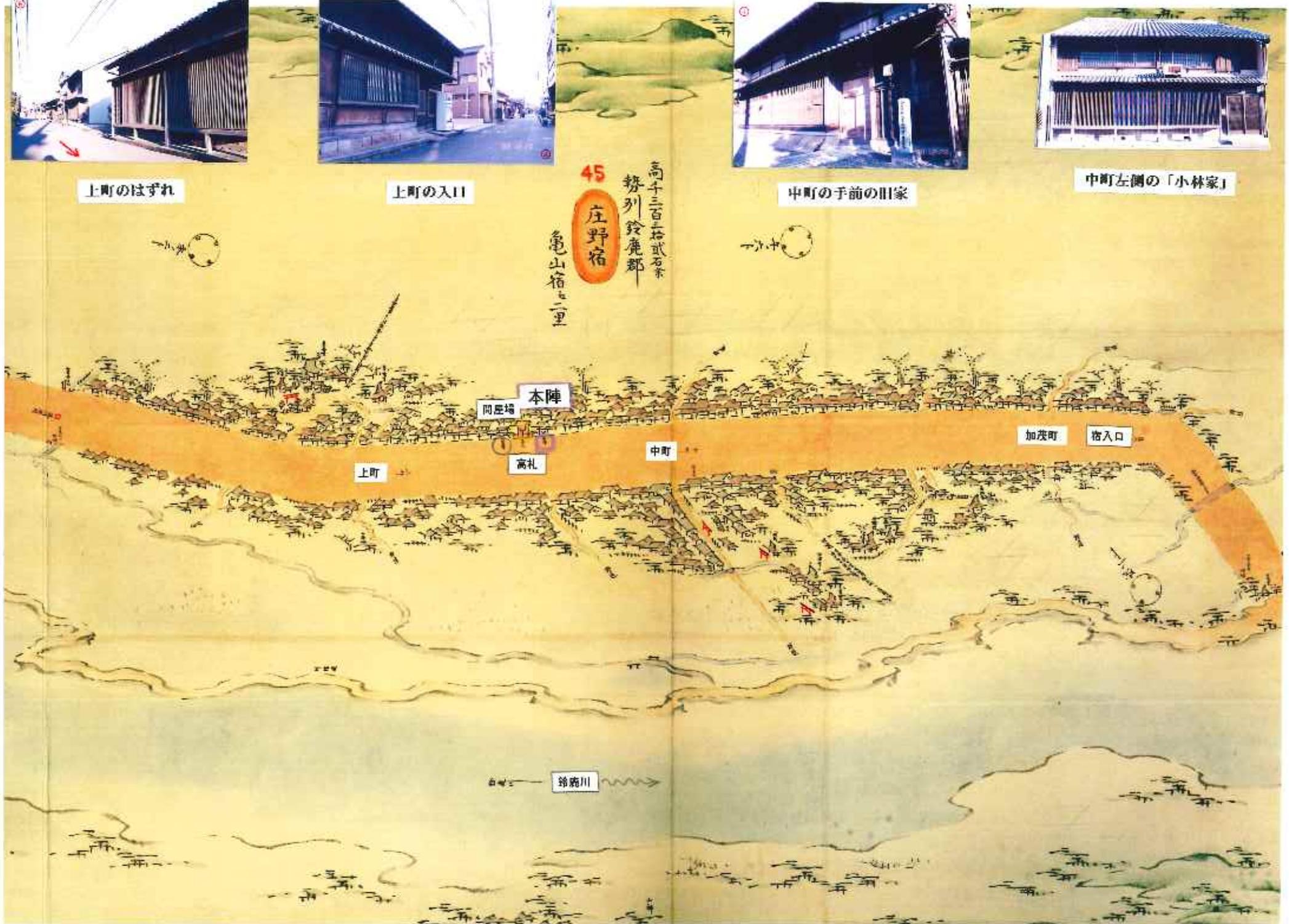
中町左側の「小林家」

45

庄野宿

高千三百五拾五米  
勢列鈴鹿郡

亀山宿七二里





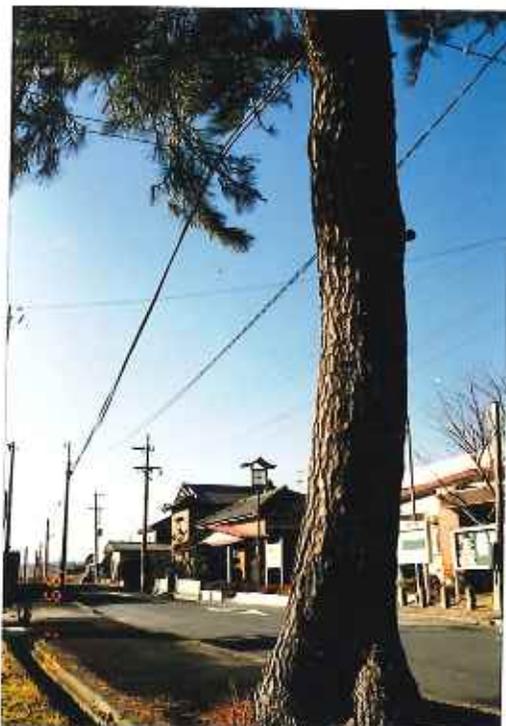
安楽川の和泉橋を渡る。鈴鹿川との合流点で水害が多かった。



これより亀山領の標識が建っている。



庄野宿を出て中富田町に入る。古い家並みが残っている。



井田川町の街道。



ここは西富田町。安楽川の堤防が見える。



棕川の橋を渡る。



# いだがわ

## 井田川

Idagawa

かめやま  
Kameyama

(三重県亀山市)

かさど  
Kasado

JR関西本線の井田川駅。次は亀山。



亀山市川合町の街道をゆく。



亀山市和田町の一里塚。昔の和田村で元は松が植えられていた。

# 46 《亀山宿》

天正18年(1590) 岡本良勝によって築かれた城下町  
うち明治まで石川家が内代務いに、120年。

宿内人口	1549人
総家数	567軒
旅籠	21軒
大中小	軒軒軒 0912



JR関西本線亀山駅



本陣 1軒  
脇本陣 1軒

左側の空地の所に本陣の樋口家があった。つき当たりが亀山城の大手門の入口で街道はその手前を左へ曲がる。

平成30年9月28日撮影  
まだ昔りまじだった。



亀山市歴史博物館のパンフレット。



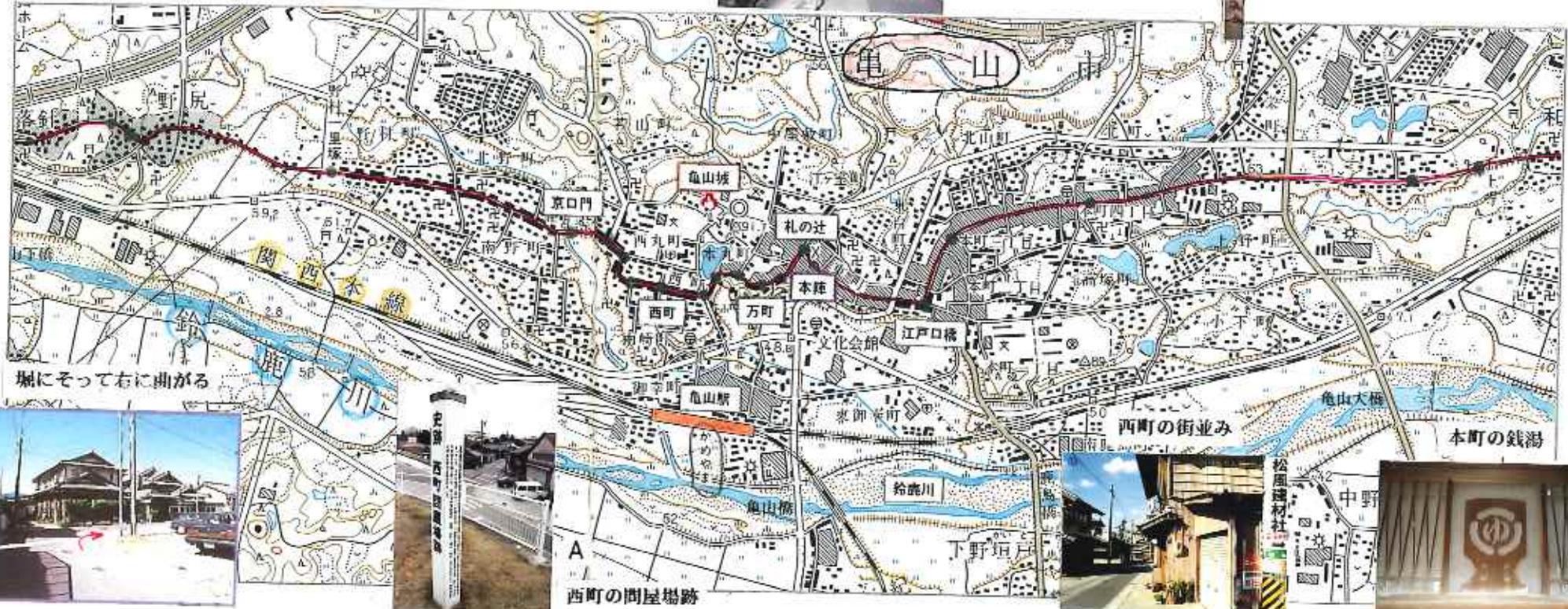
亀山城のレリーフ



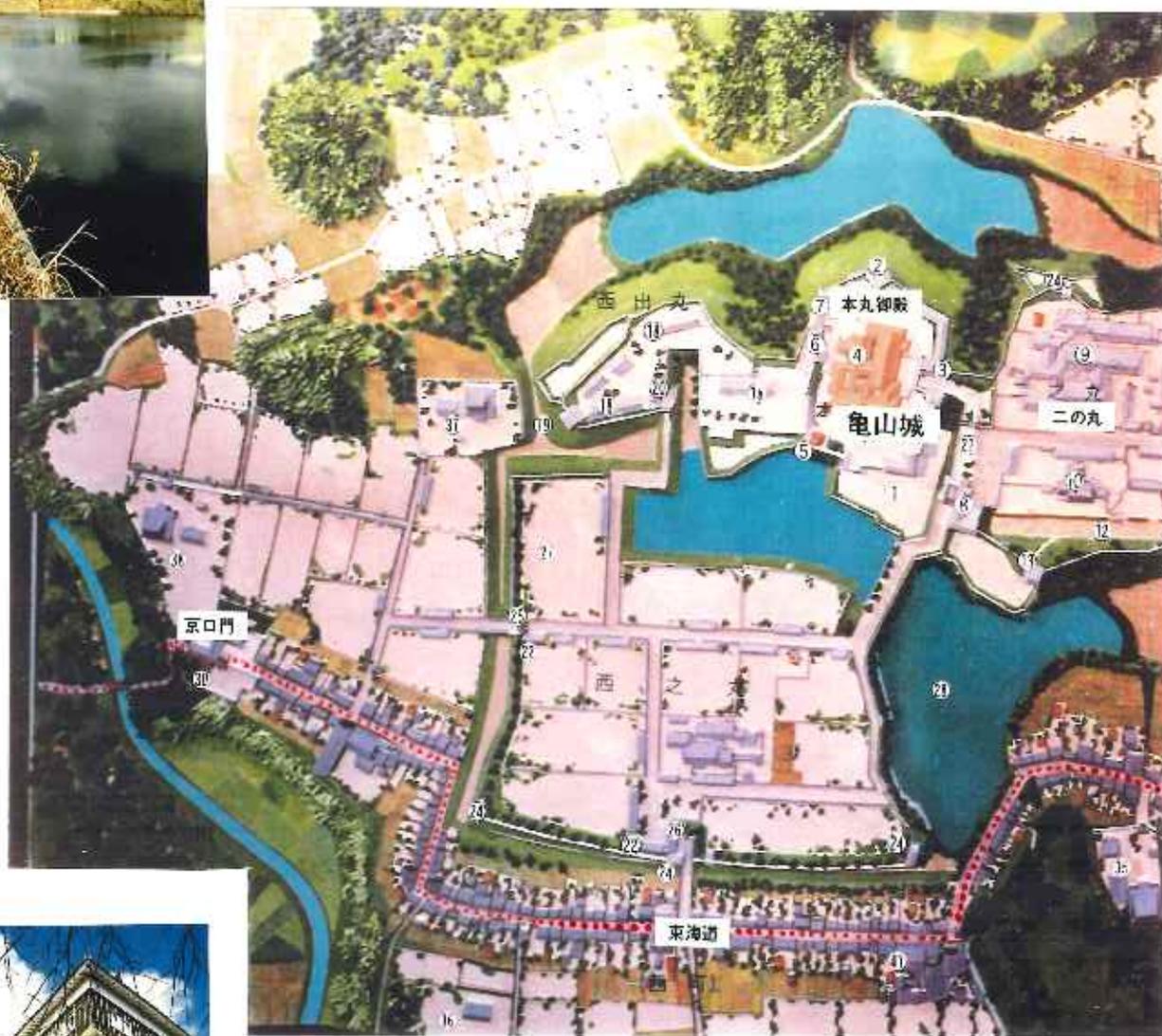
万町の家並み。



宿の入口。右側の所に江戸口門があり、番所があった。東町。



## 亀山城の模型



文久3年(1863)の亀山宿の模型 亀山市歴史博物館

天正18年(1590)岡本良勝によって築かれ、その徳川の譜代大名が次々に城主となった。石川家が11代120余年、明治まで居城した。下の曲がる道が東海道で、左が京側。



正保年間(1644~48)の多聞櫓が残っている。



亀山城の説明板。



野村の一里塚

樹齢370余年という大椋が植えられている。直径6m・高さ33mあり北側のみ残っている。椋の木の一里塚はめずらしく、全国でもここだけ。



宿の出口の京橋門へ曲がる道。



桜川の大岡寺橋を渡る。左は 鈴鹿川。



立場のあった能古茶屋跡。



一里塚付近の古い家並みの残る街道。

三重県  
関

東海道で唯一残る大型宿場

宿内人口

1942人

総家数

632軒

旅籠

42軒

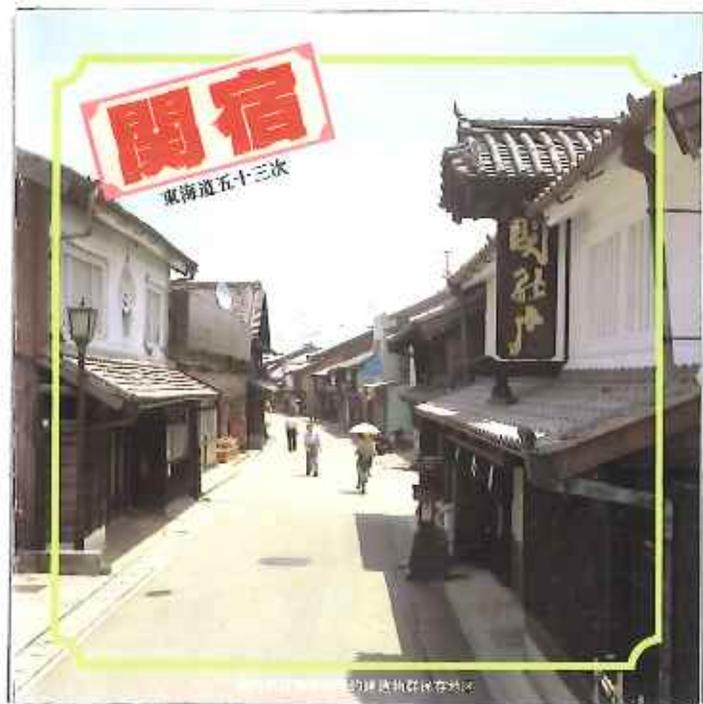
大 10軒  
中 18軒  
小 14軒



JR関西本線 関駅

遠くの山の左側が鈴鹿峠。

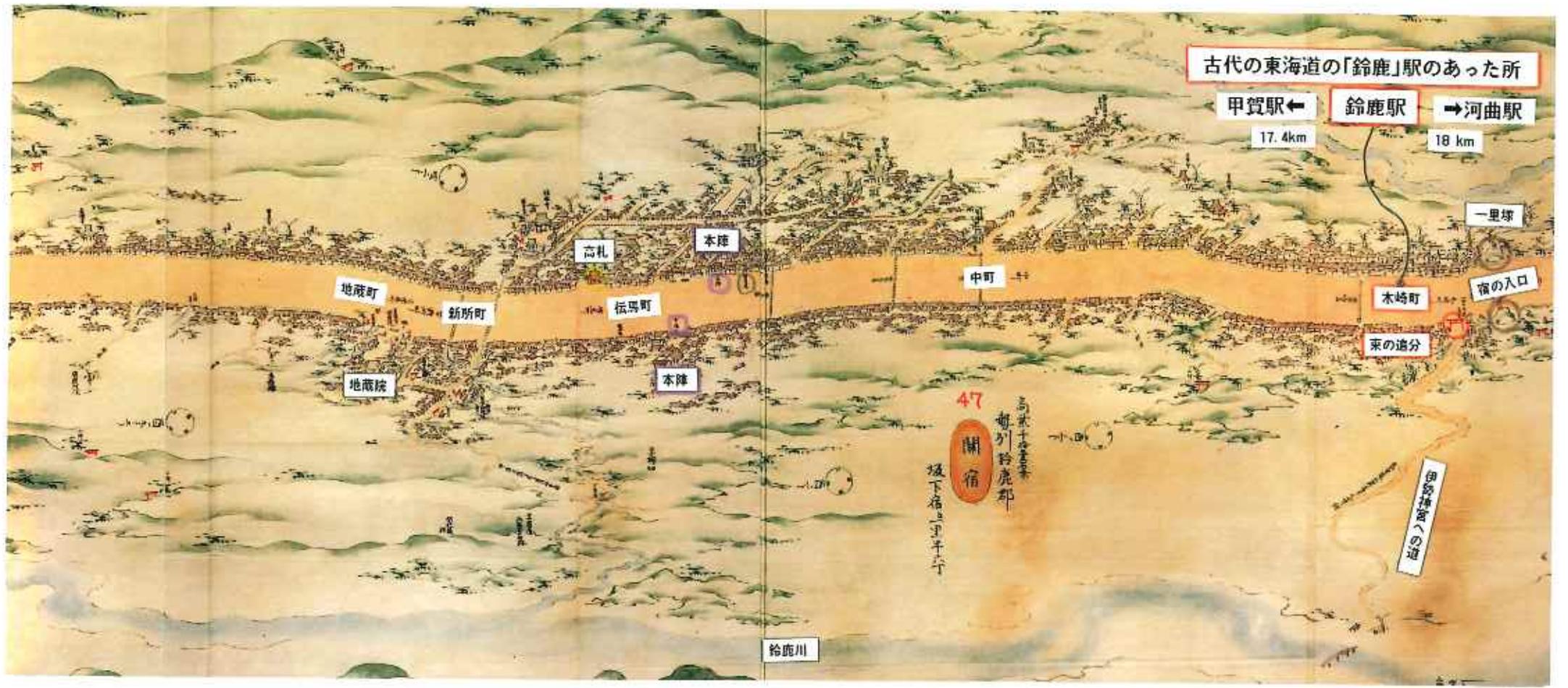
平成30年9月28日撮影



関宿の案内のパンフレット。



昭和59年重要伝統的建物群保存地区に指定された。  
東西1.8kmの間に古い家並みが200軒程並んでいる。



関宿明細図 (関町資料：寛政十二庚申九月関三町絵図より) 1800年

関 駅



本陣 2軒  
脇本陣 2軒

2軒ある本陣の内中町の右側にある川北家。



天保11年(1840)の道標。  
右さんぐう道  
左江戸道 とある。



関宿の東の入口。左は伊勢神宮への「一の鳥居」で  
ここから約60km程あり伊勢参道道という。



同じく向かい左側にある伊藤家。振り返って見る。平成30年9月28日撮影



右側の店は「遊快亭」といい、元は芸妓置屋だった店。坂口家。



元は旅籠だった「魚藤」。今は野菜等を売っている。



店内にある講の看板。



銘菓「関の戸」の看板。  
寛永年間（1624～44）造られたとある。



馬をつないでおく環金具がまだ残っている。



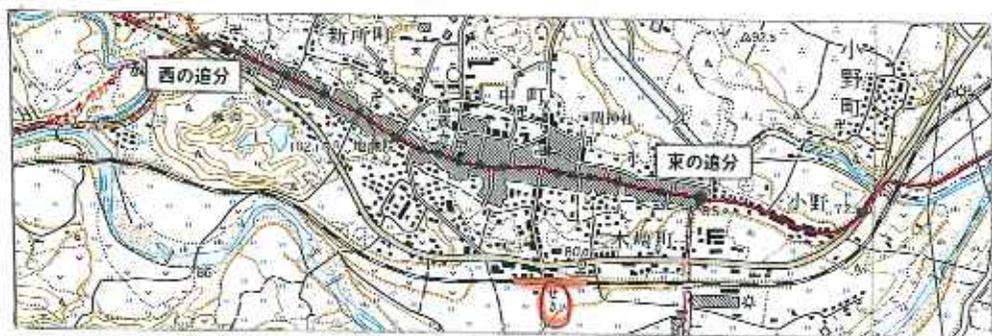
「ぼったり縁台」といい、通行人が腰をかけられる様になっている。



元料亭だった「山石」の店内。今も食事処として営業している。



そば屋をやっている「会津屋」



創業慶応元年（1865）の茶問屋の「伊勢茶」



西の追分け、右が東海道、左は大和街道で加太越への道。



宿の西側の家並み。



旧道の景勝地筆捨山の「藤の茶屋」があった所。



亀山駅からのバス路線、伊勢坂下線が通る。



関宿を出て昔の市の瀬村に入る。



坂下宿入口の川原谷橋。



昔の沓掛村に入る。



山道の旧道をゆく。左側には鈴鹿川が流れている。川沿いに登り道が続く。